

5月1日現在の就職活動状況

選考解禁からひと月が経ち、就職採用戦線は早くも最初の大きな山を越えたようだ。5月1日現在の就活モニターの活動状況について調査を行ったところ、内定率が大幅に上昇し、例年よりも早いペースで選考が進んでいることが分かった。

1. 5月1日現在の内定状況

- 内定率は58.9%。前年同期(53.0%)より5.9ポイント上昇
- 内定者のうち、就職先を決定し活動を終了したのは66.3%。前年より4.3ポイント増

2. 5月1日現在の活動状況と選考試験の受験社数

- エントリー平均85.5社、エントリーシート提出20.2社。前年との大きな変化なし

3. 就職活動継続者の状況

- 活動継続者の80.6%が「新たな企業を探している」と回答
- 現時点で活動の中心は、「中堅中小企業」「規模こだわらない」が大幅増加

4. 未内定者の今後の見通し

- 「選考中の企業はあるが内定をもらえるかどうかはわからない」60.9%

5. 後輩にアドバイスしたいこと

- 採用広報解禁前にやっておくこと、内定者は「インターンシップへの参加」が首位

6. 就職活動の新スケジュールへの意見

- 2016年卒者からの新スケジュールに「賛成」22.5%、「反対」75.5%
- 反対の理由は「学業に支障」「卒論がきつい」など

7. 就職活動時の閲読新聞

- 「日本経済新聞」が66.2%で最多。内定取得者では72.8%

8. 就職活動の難易度

- 「厳しい」46.5%、「やさしい」21.7%。前年より「厳しい」の割合は減少

《参考データ》 大学地域別集計(抜粋)

《調査概要》

- 調査対象 : 2015年3月卒業予定の全国の大学4年生(理系は大学院修士課程2年生含む)
- 回答数 : 1,238人(文系男子393人、文系女子327人、理系男子350人、理系女子168人)
- 調査方法 : インターネット調査法
- 調査期間 : 2014年5月1日~7日
- サンプリング : 日経就職ナビ2015就職活動モニター

◆本資料に関するお問い合わせ先 : 03-4316-5505/株式会社ディスコ キャリアリサーチ

「日経就職ナビ 就職活動モニター調査」は、株式会社日経HRと株式会社ディスコが大学生の就職活動状況を調査することを目的として実施しています。日経就職ナビは日本経済新聞社が主管し、株式会社日経HRが企画・管理を担当し、株式会社ディスコが運営事務局を務めています。

1. 5月1日現在の内定状況

5月1日現在のモニターの内定率は58.9%で、前年同期を5.9ポイント上回った。4月調査でも前年同期を4.1ポイント上回っていたが、5月はより差が開いた格好だ。今期の内定率はリーマン・ショック前の2007年卒に近い動きを示している。

内定率は全体的に伸びており、いずれの属性も前年の数値を上回っている。とりわけ理系女子が前年を大きく上回っているのが目立つ(55.1%→68.5%)。

新卒マーケット回復の本格化と、内定出しの早期化があいまって、このような高い内定率に結びついたと考えられる。弊社が今年2月に実施した企業調査(有効回答1,006社)でも、企業の採用意欲の高まりが鮮明に表れていたが、幅広く採用する動きが早い時期から出ているようだ。

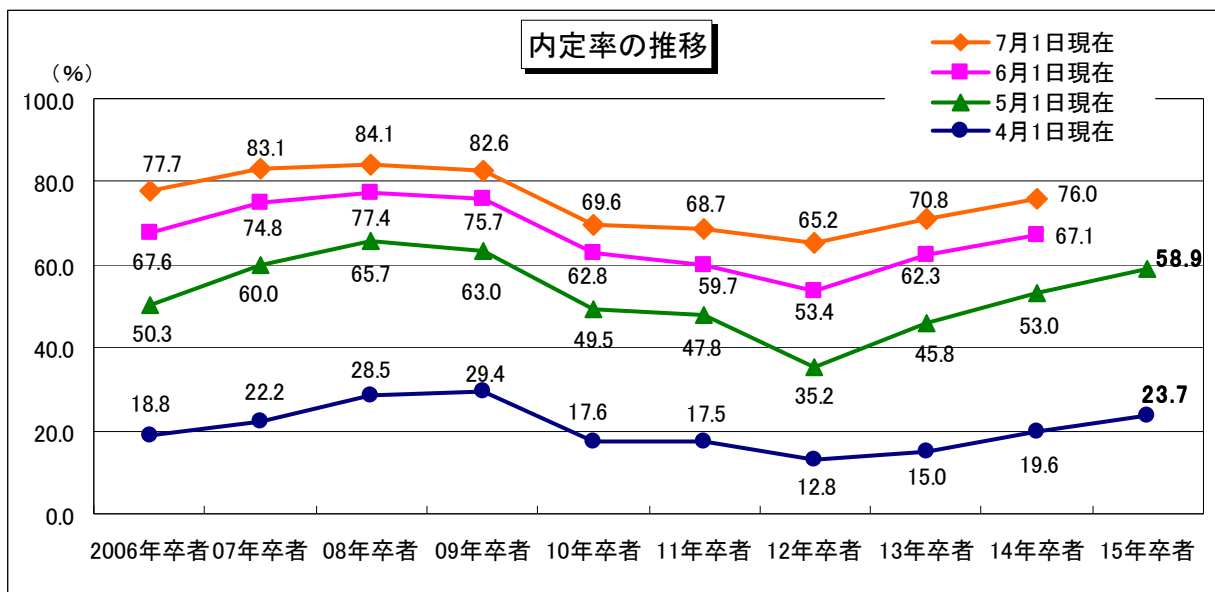
内定者のうち就職先を決定し活動を終了したのは66.3%。前年より4.3ポイント増え、第一志望群の企業に内定を得た学生が多かったと推測される。一方で、内定者の27.2%は活動を継続しており、これに「内定なし」を足し合わせた「就活継続者」は、モニター全体の57.1%となる。(グラフは次ページ)

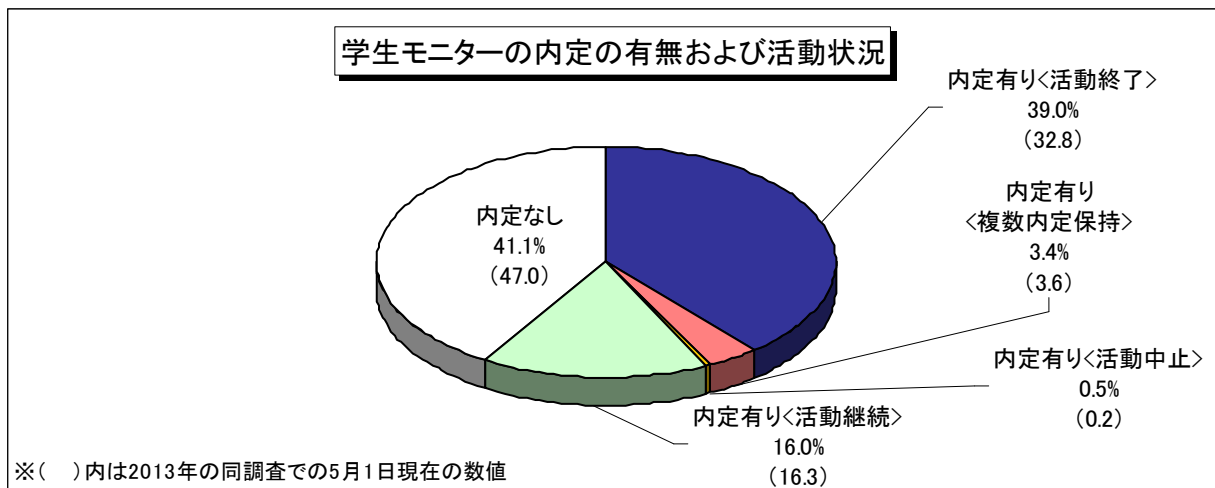
5月1日現在の内定の状況

*「内定」には、内々定を含む

| | | (%) | | | | |
|-------------|---------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| | | 全体 | 文系男子 | 文系女子 | 理系男子 | 理系女子 |
| 内定あり | | 58.9 (53.0) | 56.0 (51.5) | 53.5 (46.4) | 62.6 (60.3) | 68.5 (55.1) |
| 内定なし | | 41.1 (47.0) | 44.0 (48.5) | 46.5 (53.6) | 37.4 (39.7) | 31.5 (44.9) |
| 内定社数 (平均/社) | | 1.9 (1.9) | 1.9 (2.0) | 2.0 (1.7) | 1.8 (2.0) | 1.8 (1.8) |
| 内定者のうち | 就職先を決定し活動終了 | 66.3 (62.0) | 64.1 (59.6) | 62.9 (49.7) | 72.6 (74.4) | 63.5 (60.5) |
| | 終了したが複数内定保持 | 5.8 (6.8) | 6.4 (6.3) | 6.3 (7.5) | 5.9 (6.5) | 3.5 (7.9) |
| | 進学などの理由で活動を中止 | 0.8 (0.5) | 0.5 (0.9) | 0.0 (0.0) | 1.4 (0.0) | 1.7 (1.3) |
| | 就職活動継続 | 27.2 (30.7) | 29.1 (33.2) | 30.9 (42.9) | 20.1 (19.1) | 31.3 (30.3) |

※()内は2013年の同調査での5月1日現在の数値





2. 5月1日現在の活動状況と選考試験の受験社数

5月1日現在の活動量をまとめた。一人あたりのエントリー社数は平均で85.5社と、前年(84.9社)より0.6社微増した。今期は1月調査以降、対前年比微増で推移しているが、5月になってもそのペースに変化は見られない。

セミナー参加社数、オンラインセミナー視聴社数といった情報収集の量は、前年同期とほぼ同水準で推移している。エントリーシート提出社数は平均20.2社で、4月調査の18.2社からは2.0社増えたが、前年同期(21.2社)を1社ほど下回った。

選考試験の受験社数は、面接試験が前年の9.1社から9.7社へと微増したものの、全体的に前年と大きく変わらない社数を示している。受験社数は変わらないのに内定率が上昇していると捉えると、就職環境改善の影響が感じられる。

5月1日現在の就職活動の状況

| | 全 体 | 今年4月 | 前年全体 | 文系男子 | 文系女子 | 理系男子 | 理系女子 |
|------------------|------|------|------|------|------|------|------|
| エントリー (社) | 85.5 | 82.1 | 84.9 | 98.7 | 95.5 | 61.3 | 85.7 |
| セミナー・説明会参加 (社) | 51.0 | 49.0 | 51.4 | 56.2 | 56.9 | 42.8 | 44.8 |
| 企業単独開催のもの (社) | 22.7 | 21.0 | 23.4 | 26.0 | 25.7 | 17.7 | 19.5 |
| 合同開催のもの (社) | 15.3 | 15.6 | 15.5 | 17.0 | 17.0 | 13.1 | 12.9 |
| 学内開催のもの (社) | 13.0 | 12.4 | 12.5 | 13.1 | 14.2 | 12.1 | 12.3 |
| オンラインセミナー視聴 (社) | 6.2 | 6.5 | 6.3 | 6.3 | 6.5 | 6.0 | 6.0 |
| ライブ中継 (社) | 3.2 | 3.3 | 3.3 | 3.3 | 3.3 | 3.1 | 3.1 |
| オンデマンド(録画) (社) | 3.0 | 3.3 | 3.0 | 3.1 | 3.2 | 2.9 | 3.0 |
| エントリーシート提出 (社) | 20.2 | 18.2 | 21.2 | 22.1 | 21.3 | 16.5 | 21.7 |
| 選考試験の受験社数 (社) | 28.0 | 22.1 | 27.3 | 32.2 | 29.4 | 22.8 | 26.1 |
| 筆記・WEB試験 (社) | 13.7 | 11.8 | 13.7 | 15.3 | 14.5 | 11.3 | 13.6 |
| 面接試験 (社) | 9.7 | 6.6 | 9.1 | 11.6 | 10.1 | 7.8 | 8.7 |
| グループディスカッション (社) | 4.6 | 3.7 | 4.5 | 5.4 | 4.8 | 3.7 | 3.8 |

3. 就職活動継続者の状況

内定者も含め 5 月 1 日現在で就職活動を継続している学生 (モニター全体の 57.1%) の、現在選考中の企業数は平均 2.7 社。また、これから受験する予定の企業数は同 3.0 社、今後のエントリー予定社数は同 8.1 社だった。いずれも未内定者のほうが内定保持者よりも社数が多く、内定取得に向け積極的に「持ち駒」を増やそうとしている様子が見える。ただ、内定保持者であっても 67.2% が新たな企業を探しており、これから受験先を増やしたいという層は少なくない。内定を出している企業側から見れば内定辞退予備軍とも言えるため、内定後のフォローも重要となってくるだろう。

新たな企業を探していると回答した学生 (活動継続者の 80.6%) に、その手段を尋ねたところ、「就職情報サイト」が 90.4% と 9 割を超えており、学生にとって依然主要なツールとして機能していることが確認できる。「大学の求人票」30.4%、「合同企業説明会」22.3% と続く。

活動継続者が現時点で活動の中心としている企業の規模を、先月の同データ、および全モニターを対象に 3 月に調査したデータと比較してみた (グラフは次ページ)。3 月調査と 4 月調査では大きな変化はなかったが、5 月調査では「中堅中小」「規模にこだわらない」との回答が大きく増えた。大手企業の中には既にエントリーの受付を終了したり、事実上選考を終了したりしているところも多く、必然的に中堅中小へとシフトしてきているのだろう。

就職活動継続者の状況 (平均社数)

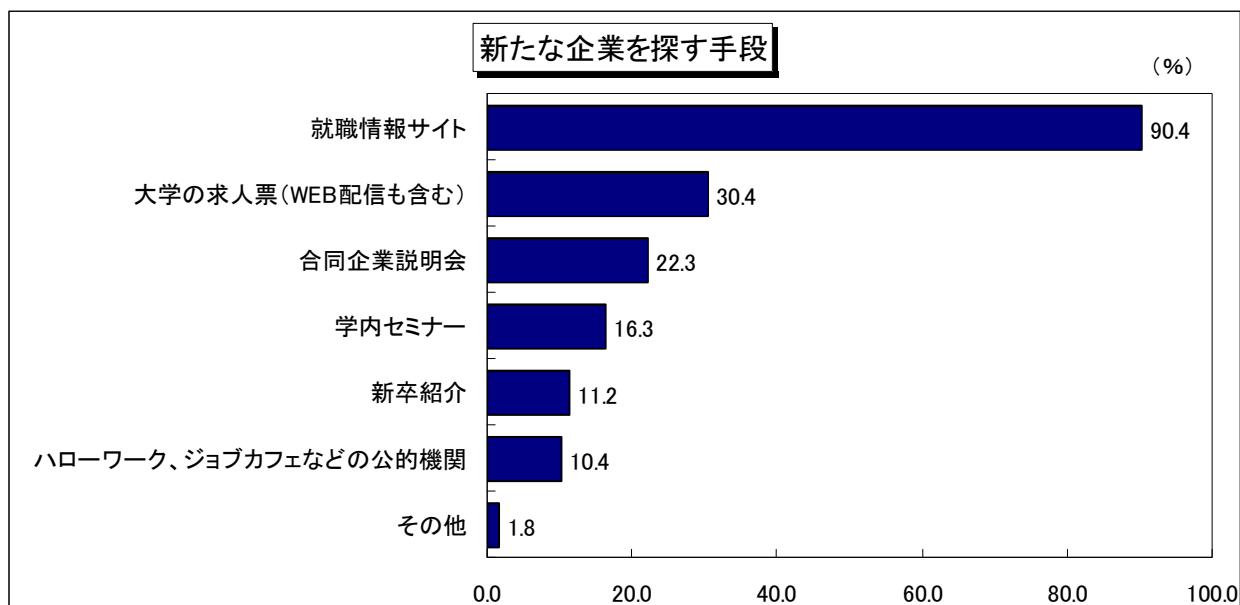
| | 全 体 | 内定保持者 | 未内定者 | 文系男子 | 文系女子 | 理系男子 | 理系女子 |
|--------------|-----|-------|------|------|------|------|------|
| 現在選考中の企業数 | 2.7 | 2.5 | 2.8 | 2.6 | 3.1 | 2.2 | 3.0 |
| これから受験予定の企業数 | 3.0 | 2.2 | 3.4 | 3.5 | 3.2 | 2.5 | 2.4 |
| 今後のエントリー予定社数 | 8.1 | 6.3 | 8.5 | 8.9 | 8.7 | 6.0 | 8.3 |

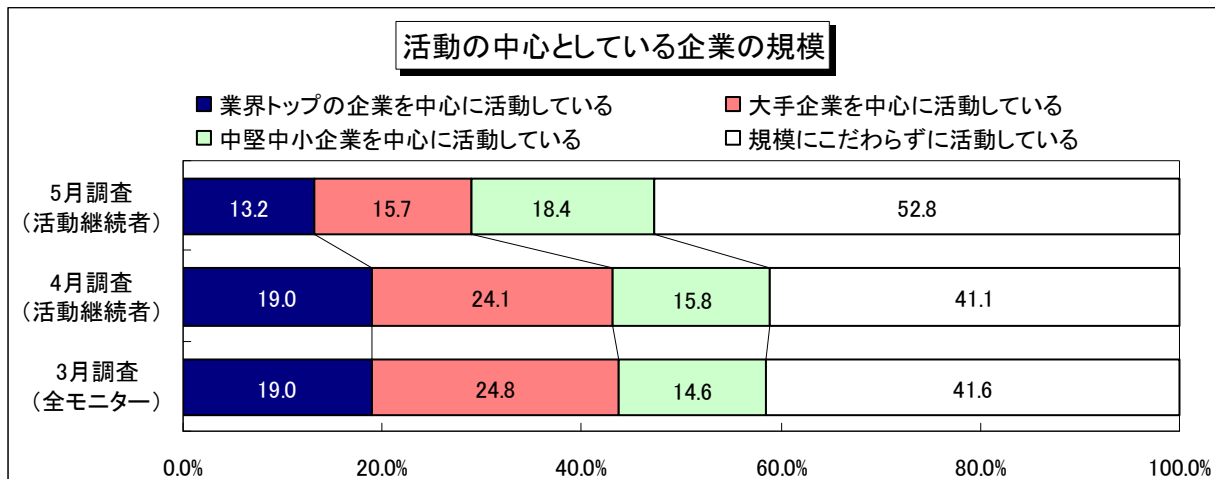
(社)

新たな企業を探しているか否か

| | 全 体 | 内定保持者 | 未内定者 | 文系男子 | 文系女子 | 理系男子 | 理系女子 |
|--------------|------|-------|------|------|------|------|------|
| 新たな企業を探している | 80.6 | 67.2 | 85.9 | 82.3 | 82.5 | 79.4 | 74.2 |
| 新たな企業は探していない | 19.4 | 32.8 | 14.1 | 17.7 | 17.5 | 20.6 | 25.8 |

(%)

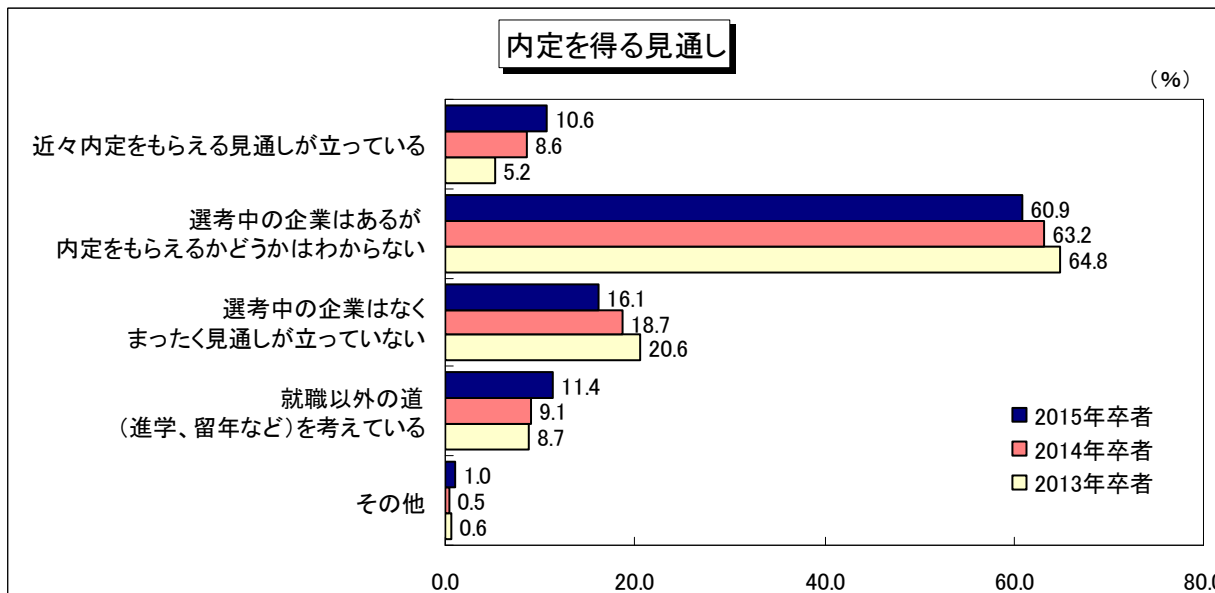




4. 未内定者の今後の見通し

5月1日現在で内定を得ていない学生（モニター全体の41.1%）に、今後の見通しを尋ねた。最も多いのは「選考中の企業はあるが内定をもらえるかどうかはわからない」の60.9%だが、年々その割合は下がり、逆に「近々内定をもらえる見通しが立っている」の割合が増えている。

「就職以外の道（進学、留年など）を考えている」と、就職戦線からの離脱を考える学生は前年より2.3ポイント増えて11.4%。4月の選考で思うように内定が取れない場合に、早々に来春の就職を断念する学生が出始めている。



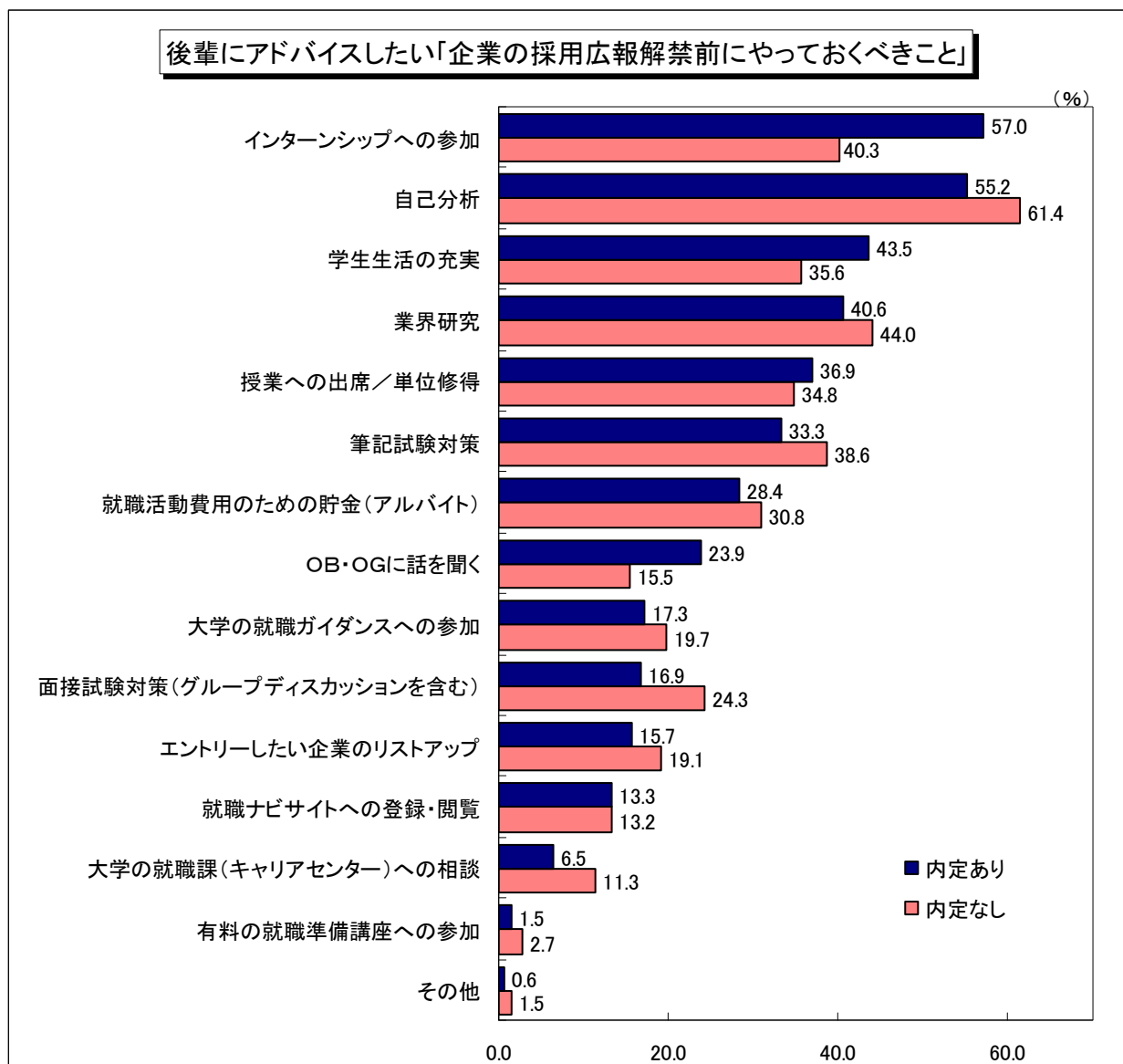
5. 後輩にアドバイスしたいこと

少々気が早いですが、来年就職活動を行う後輩に向けて、「企業の採用広報解禁前にやっておくべきこと」をアドバイスするとしたら、どんなことを挙げたいかを尋ねた。

あてはまるものを選択肢からすべて選んでもらい、内定の有無別に集計した。両者ともに過半数が選んだのが「自己分析」。就職活動をスムーズに進めるためには、エントリー受付が始まってから取り組むのでは遅い、ということだろう。

内定ありグループのほうが内定なしグループを大きく上回っているのが「インターンシップへの参加」。夏休み中などに参加することで、就職について考えるきっかけになったとの経験から、ぜひ後輩にも勧めたいという学生が多いようだ。また、「学生生活の充実」「OB・OG に話を聞く」なども、内定ありグループのほうが内定なしグループを上回っている。特別な準備をするよりも、普段の学生生活を充実させたり、先輩に仕事の話を聞いたりして過ごすことが、就職活動においてもよい結果につながるということだろう。内定取得者が言うと、より説得力がある。

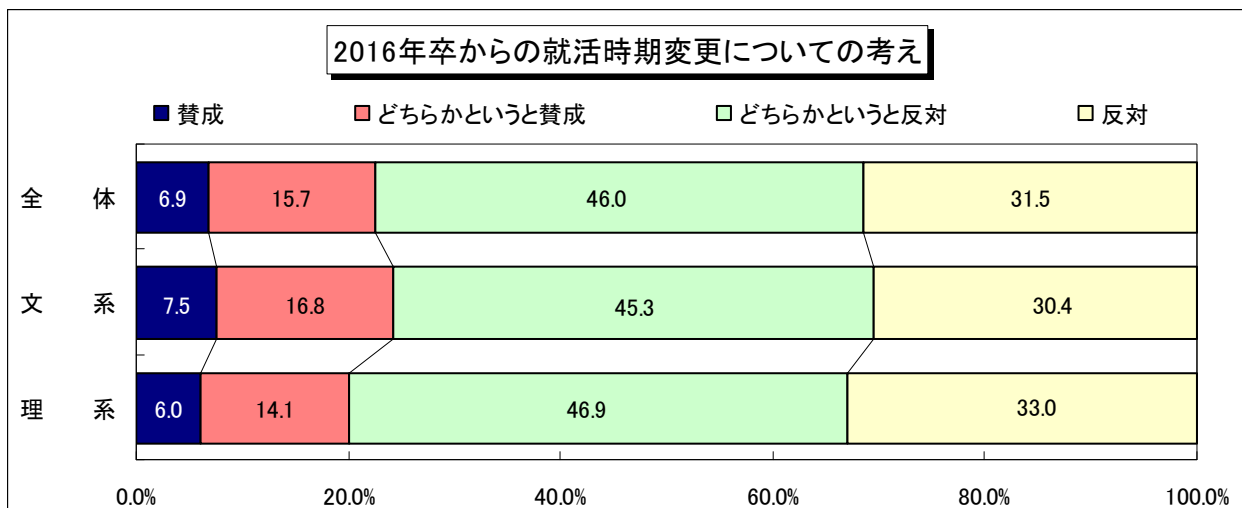
一方、内定なしグループは「筆記試験対策」「面接試験対策」といった試験対策のポイントが高く、「早くから対策をしていれば今頃は内定をもらえていたかもしれない」との思いもありそうだ。



6. 就職活動の新スケジュールへの意見

来年 (2016 年卒者) から就職活動の解禁時期が「3 年生の 3 月」へと現行より 3 カ月繰り下がり、選考解禁が「4 年生の 8 月」へと 4 カ月繰り下がることについて、学生の立場からの考えを尋ねた。「賛成」6.9%、「どちらかという賛成」15.7%を合計すると 22.6%で、賛成は 2 割強。77.5%と 8 割近くが「反対」と回答した。

時期が遅くなることで、逆に学業 (卒論など) に支障が出たり、ミスマッチのリスクが高まったりするなど、後輩の就活を憂う声が目立った。



■就職活動の時期が繰り下げられることについて

《賛成の理由》

- 本業は学業。勉強に集中できる期間ができて、いいのではないと思う。 <文系男子>
- 現在は 3 年の 12 月から始まるが、その時期は期末試験と重なり、非常に忙しくなってしまう。新スケジュールであれば、大抵の学生が 3 年で卒業要件の単位を取得し終えているので、就職活動に専念しやすいと思う。 <文系男子>
- 長い期間就職活動に苦しむことなく、集中して短期間で活動できそうだから。 <文系女子>
- スケジュールを繰り下げることによって内定から入社までの期間が短くなり、よりスムーズに社会人として始めることができると思う。 <理系男子>

《反対の理由》

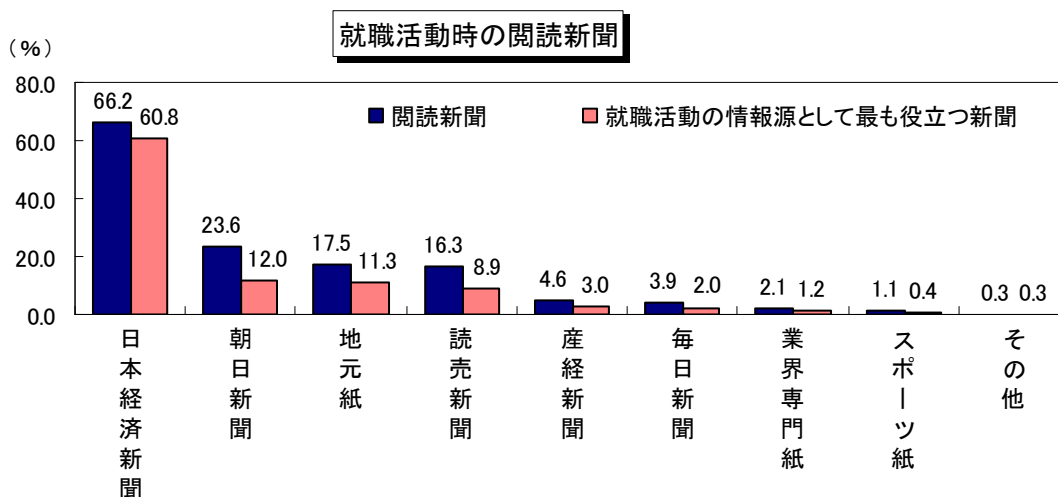
- 勉強のため、という声も聞かれるが、卒論を書く時間がなくなるだけだ。また、春休みを使った就職活動ができたからよかったものの、夏は辛いだらう。 <文系男子>
- 4 年次の研究に差し支えるだけでなく、スケジュールが後ろに繰り下げられることで企業を選択する余裕などが失われてしまうため。 <文系男子>
- インターンは 3 年生の夏から始まるのに内定が出るのが一年先というのは、就活期間が長くなるだけだと思う。困り込みがより激化して、解禁日まで本当に待っていた人は就活がうまく行くとはいえない。 <文系女子>
- 一つ上の先輩がすでに卒業しているので、アドバイス等をもらいにくくなるから。 <文系女子>
- 夏は学会シーズンなのに、そこに就職活動が被る。来年からは理系学生は大変になると思う。 <理系男子>
- 院生などは修士論文のスパート時期とかぶり大変になると思う。 <理系男子>
- 短期決戦型であるとする選考を受けながらじっくり企業を選ぶこともできないので、最初に内定をくれた企業になびきがちであるし、自分に合わないと言ってすぐに辞める人の比率も高くなると思う。 <理系女子>

7. 就職活動時の閲読新聞

就職活動中の閲読新聞がある学生 (全体の 72.5%) に、具体的な新聞名を尋ねたところ、「日本経済新聞」が最も多く、66.2%と 6 割強に上った。次いで「朝日新聞」23.6%、「地元紙」17.5%、「読売新聞」16.3%と続く。

属性別にみると、「日本経済新聞」の閲読率は女子より男子で高い傾向がある。また、内定ありグループは内定なしグループと比較して「日本経済新聞」の閲読率が高く、72.8%と 7 割を超える。

就職活動の情報源として最も役立つ新聞には、他紙を大きく上回り「日本経済新聞」(60.8%)が選ばれた。

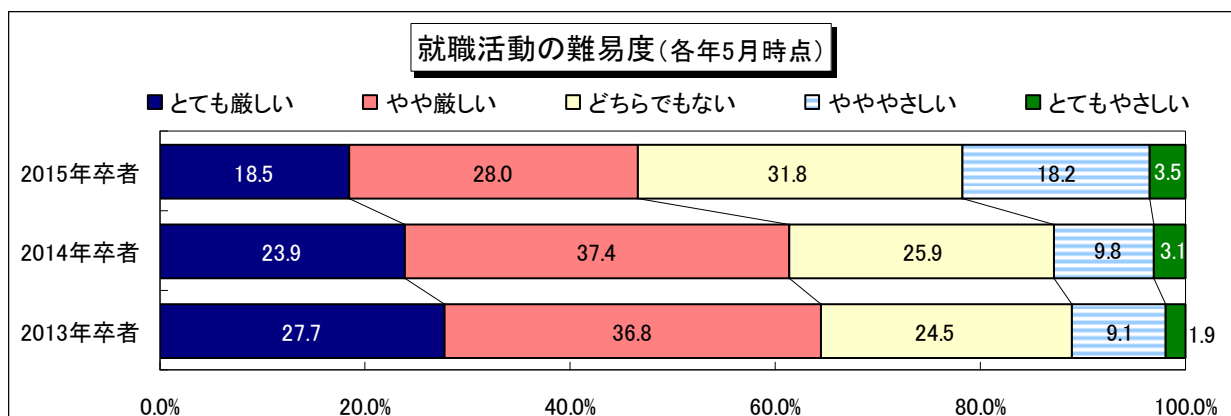


| | 日経 | 朝日 | 地元紙 | 読売 | 産経 | 毎日 | 業界専門 | スポーツ | その他 |
|------|------|------|------|------|-----|-----|------|------|-----|
| 文系男子 | 72.4 | 20.8 | 17.3 | 15.1 | 4.8 | 4.2 | 1.3 | 2.6 | 0.3 |
| 文系女子 | 60.2 | 23.6 | 23.2 | 18.1 | 4.7 | 5.1 | 1.6 | 0.4 | 0.0 |
| 理系男子 | 67.3 | 20.6 | 13.1 | 15.4 | 4.2 | 1.4 | 3.7 | 0.5 | 0.9 |
| 理系女子 | 60.7 | 36.8 | 13.7 | 17.1 | 4.3 | 5.1 | 2.6 | 0.0 | 0.0 |
| 内定あり | 72.8 | 23.8 | 12.9 | 14.4 | 4.5 | 2.8 | 2.6 | 0.8 | 0.4 |
| 内定なし | 56.6 | 23.4 | 24.2 | 19.0 | 4.7 | 5.5 | 1.4 | 1.6 | 0.3 |

※表は「閲読新聞」のスコア

8. 就職活動の難易度

現時点で自身の就職活動を「厳しい」と感じている学生は、「とても厳しい」18.5%、「やや厳しい」28.0%を合計して 46.5%で、「やさしい」の 21.7%の 2 倍以上にのぼっている。しかし、この 3 カ年分を経年比較すると (毎年 5 月調査)、「厳しい」との見方は毎年減少している。内定取得学生の中には「意外とあっさり内定が出た」「思っていたよりもあっけなかった」といった感想を報告してくる学生も見られ、前年・前々年に比べると就職しやすい年になっていると言えそうだ。



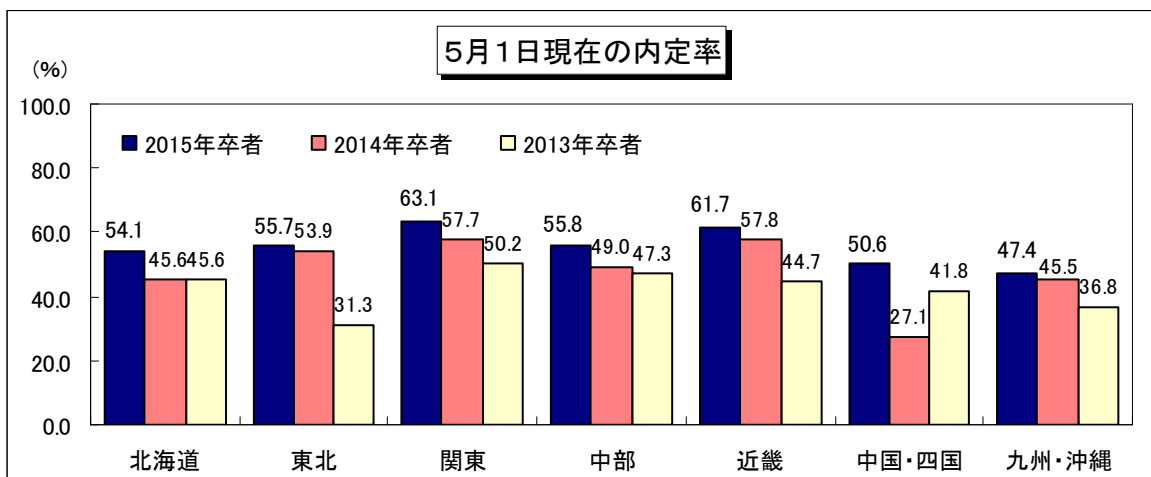
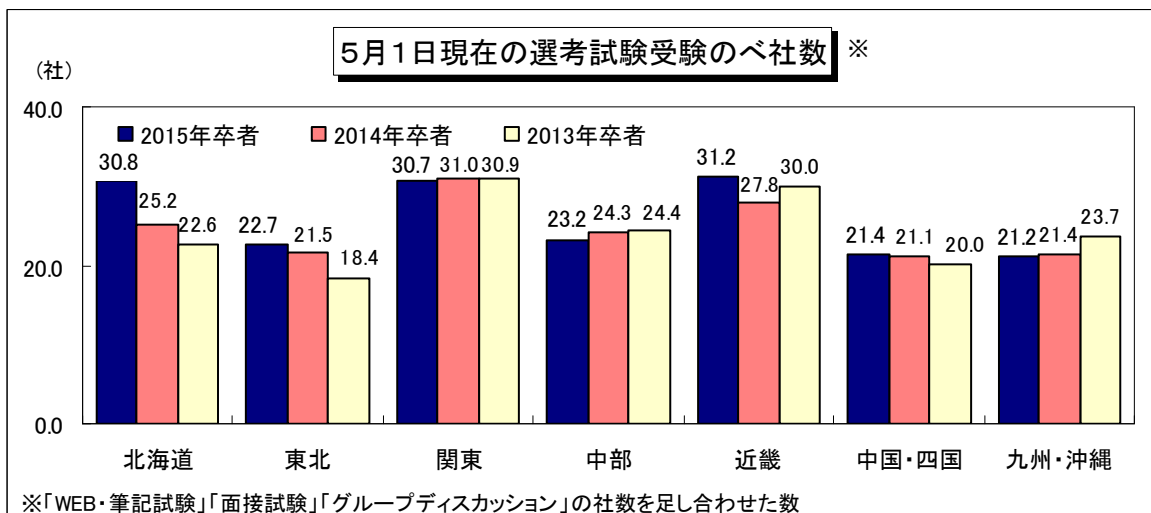
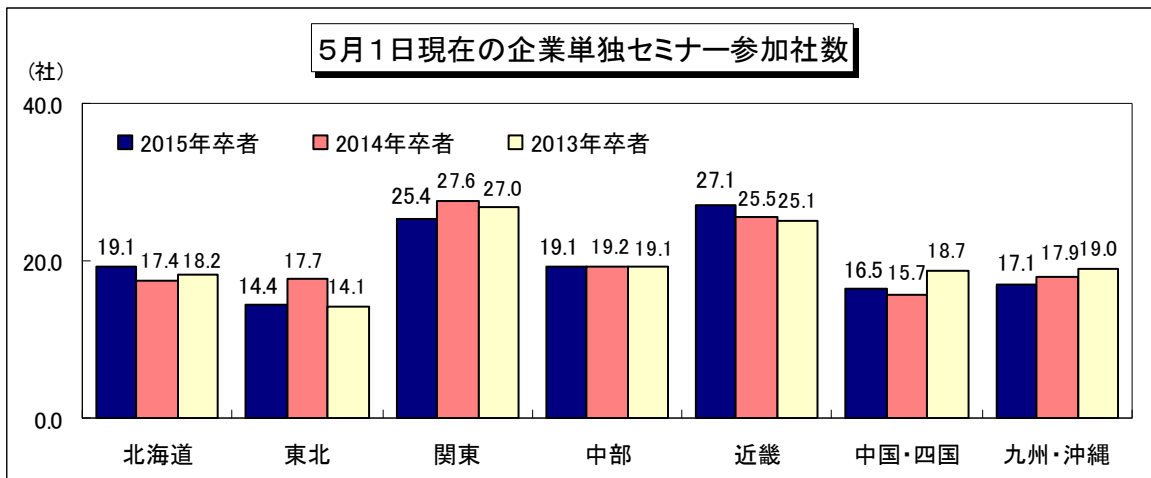
■就職活動に関して思うこと (内定者)

- 企業から内定をもらった瞬間は、嬉しさと共に、何だかとてもあっけないなと感じた。他社の選考辞退の電話をしていると、お世話になった人事の方の顔が浮かび、ここまでの絆や縁を築きあげるのはとても大変だったけれど、それを断つ事は一瞬でできてしまうのだな、と少し寂しくなった。 <文系女子>
- 就職活動は業界との相性があると感じた。私の場合はメーカーにはほぼ全滅したのに対し、金融・商社など、モノを持たない企業では選考を通過することができたため、それぞれの人には適している業界があるのだと感じた。 <文系男子>
- 進路をどのように考えているか、両親と相談をしておくべきだったと思いました。面接を受けているときより、内定を複数社いただいてから、どこにするか判断できず非常に憂鬱な日々を過ごしたからです。結果的に、自他ともに認める会社に決めることができました。 <理系男子>
- 今年は完全な売り手市場で、すんなり、あっけないという感じで就活を終えることができた。ラッキーな世代だった。 <文系男子>
- 景気により就職のしやすさに非常にばらつきがあることに疑問を感じた。特に新卒採用がメインとなる日本では。恵まれた年に就職活動ができよかったと思う。 <理系男子>
- 地方大学の学生のためにも、Web セミナーを充実させてほしいと思います。 <理系女子>
- 就活中に何度か考え方が大きく変わった。最終的に決まったところは、始めは志望度が高くなかったが、導かれたのではないか感じるくらい納得している。 <文系女子>
- 終わってみても、自分の何が評価されて終わったのか、自分の何がダメでダメだったのか、わからずじまいだ。 <理系男子>
- 内定は頂いたが、まだ正直迷っている状態。ぜいたくな悩みだとは思っている。 <文系男子>
- 結果的に早く終わったからよかったものの、長引いたら修論の中間発表がピンチだったので、まだ終わってない就活仲間は心配です。 <理系女子>

■就職活動に関して思うこと (未内定者)

- 希望職種を変えたことでやっと面接まで進むことができた。やりたい仕事ではないが、世の中のほとんどの人がそんな状況だと思うので頑張るしかない。とりあえず早く周りの人を安心させてあげたい。 <理系男子>
- 少し前まではゴールデンウィーク前に就職活動終れると思っていたのに、終わりませんでした。周囲は内々定が出つつあり、焦りそうになりますが、就職先はこれから先きっと長く勤める場所。自分に合った企業を焦らず探していきたいです。 <文系女子>
- 就活を少し甘く見ていたかもしれません。 <理系女子>
- 周りが内定を頂きだし本心は焦っています。しかし、これまで見えなかった自分が見え出し、新たな気持ちで夏までに内定いただけるように頑張りたいです。 <文系男子>
- 面接を受けたとき、時々思いがけない質問があったりして、そこから新たな自分の性格や特徴を知ることができるといことが分かった。募集している会社も減ってはきたが、なんとか自分が納得できる会社に就職したい。 <理系男子>
- バブル世代の「オトナ」は、就職が決まらないのは近頃の学生の質が落ちてからだという。面接官にはバブル世代が多い。好き勝手やってた世代のせいでは寄せを受けているのに、なんでそんなことを言われなければいけないのか。 <文系女子>
- 内定を取りたいと思う一方で、どうにかなるだろうとってしまう自分もいる。 <文系男子>
- 卒論と就活を両立するのが難しく、大学を卒業してから就活をしたいと感じる。 <理系女子>
- 失敗した。が、既にエントリー締め切りか第2クール。明るい未来が見えないが、まだ5月なので頑張ります。 <文系男子>
- 少しずつ面接にも慣れてきた。最近、この企業は私に合うかも、合わないかも、というのが選考中に分かるようになった。進歩を感じます。 <文系女子>

《参考データ》 大学地域別集計



【回答数】

| | 北海道 | 東北 | 関東 | 中部 | 近畿 | 中国・四国 | 九州・沖縄 |
|---------|-----|----|-----|-----|-----|-------|-------|
| 2015年卒者 | 61 | 79 | 507 | 163 | 248 | 85 | 95 |
| 2014年卒者 | 68 | 76 | 497 | 157 | 251 | 70 | 99 |
| 2013年卒者 | 57 | 67 | 506 | 165 | 226 | 91 | 95 |